

ォレスターズ・シンドローム)』⁽³⁾から脱皮すべきことを胆に命じてこの稿を締めたい。

〔参考文献〕 (1) INFOR : Forestacion en zonas semiaridas. 1992 (2) 高須寿 : 「誤解に埋もれた熱帯林問題」—地球環境保全の原点を探る—, 1990 (3) 渡辺桂 : 「知らずして散文を語る」—社会林業と国際協力—, 熱帯林業 No. 22, 1991

新刊紹介

◎インドネシアの植物病害・宿主目録 (Haryonmo SEMANGUN : Host index of plant diseases in Indonesia. 1992, 351 pp. Gadjah Mada University Press, Yogyakarta. インドネシア国内価格 9,500 Rupia, 邦貨約 600 円, 海外価格および送料不明)

インドネシアでは 1975 年にガジャマダ大学植物病理学研究室 TRIHARSO 教授らによって「List of diseases of important economic crop plants already reported in Indonesia. Bull. Fakult. Agr., Univ. Gadjah Mada 14, 60 pp.」が発行され、92 属 104 種の作物上に 625 種類の病害と、病名、病原体、分布と初出文献が採録されていた。この出版物にはそのほか病名未記載で病原体のみのものも収録されているが、宿主の配列が英・インドネシアの一般名のアルファベット順に並べられ、索引(宿主学名、病原体学名)もなく、目的の宿主を探すのに不便を感じていた。

これらの欠点を補い、索引を完備し、さらに 1990 年までの文献と記録を取り入れて、新たなインドネシア産植物病害目録が 1992 年末に発刊された。本書への収録作物(宿主植物)は 554 属 655 作物と前書に比し 5~6 倍の増加であり、それらの上に発生する病害数は約 2,600 種類とこれも 4 倍強に増えている。この中に含まれる林木・緑化樹木の種類は 105 樹種、これらに発生する病害数は約 400 種類で、前書の 8 樹種 41 病害と比べると遙かに飛躍的な増加といえよう。マツ類、アロウカリア、アガチス、チーク、メリナ、ユーカリ類、マメ科樹木、フタバガキ科樹木など重要な林木がほとんど収録され、それらに今までインドネシアでどんな病気が記録されていたかを、ひと目でみることができる。本書はインドネシアだけではなく、熱帯アジア地域の作物保護あるいは森林保護に関係する研究者、技術者にとって利用価値の高い書物(学術書)である。

海外価格、送料等が不明のため出版所の住所を記しておく。Gadjah Mada University Press, P.O. Box 14, Bulaksumur, Yogyakarta, Indonesia.

(小林享夫)